

沖縄教区報・道しるべ

発行所：日本基督教団沖縄教区 〒901-2213 宜野湾市志真志 4-24-7 電話(098)898-4363/FAX(098)897-6963(教区事務所)
発行人代表：羽柴 禎 編集：沖縄教区報・『道しるべ』編集委員会 E-mail okikyoku@yahoo.co.jp

第83回 沖縄教区臨時総会 開催

第83回沖縄教区臨時総会が2023年2月26日(日)16:00~17:00、沖縄キリスト教センター大会議室にて開催された。新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ流行のおり体調不良等により総会が不成立とならないように、書面による表決も出席扱いとして開催された。主な議事は沖縄教区規則第17条(3)項による、伊波美智子(宜野湾伝道所)の按手礼執行。総会は書面19、会場出席21(合計40)の成立宣言を受け、議案第1号(第83回沖縄教区臨時総会議事日程)、議案第2号(按手礼執行に関する件)、議案第3号(第83回沖縄教区臨時総会議事録確定に関する件)をそれぞれ満場一致で可決した。

按手を受けるにあたって伊波美智子・宜野湾伝道所主任担任教師は以下のように決意を読み上げた。

◇—◇—◇
「按手を受けるにあたって」

伊波美智子

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイによる福音書28章19~20節)

冒頭に掲げたのは、「大宣教命令」と呼ばれる有名な聖書箇所です。イエス様と聖書に出会い、洗礼を受けてから55年、献身を志して神学校で学びを始めた時から12年の時が経ちました。沖縄聖書神学校で教えていただいたこの御言葉に励まされ、忙しくも充実した日々を過ごし、按手礼を迎えられることの恵みに感謝します。

小学校4年の時、クリスマスのプレゼントが目当てでしたが、近所の遊び仲間と一緒に初めて教会に行き、イエス様の聖名と祈ることを教えてもらいました。高校時代に導かれた教会(沖縄聖書教会)では、卒業後の進路に迷う私を大学に進学するようにと背中を押してくれた牧師がおられました。大学時代に通った教会(沖縄聖書宣教教会)では、アメリカ人の宣教師と共に活動し、洗礼を受けました。大学を卒業してアメリカに留学した時は、大学の近くにメソジスト教会がありました。結婚して宜野湾市に移り住み、5年ほどして導かれたのが、現在牧会している宜野湾伝道所の前身である松田定雄先生のご家庭集会です。私の人生の岐路にはいつも教会があり、主の導きがありました。思えば不思議なことですが、主は時間をかけて日本基督教団の教師として献身する道を整えてくださいました。ただ感謝あるのみです。

若い時に、いつか献身をと思いましたが、まだ時は熟していませんでした。定年退職を迎えた65歳の時、主は学びの時と場所を備えてくださいました。主の召命に「No」はありません。ただ「イエスあるのみ」です。瞬く間に時は過ぎ、多くの信仰の先輩、友人、信徒の方々が励ましてくださり、祈ってくださいました。何よりの祝福は、家族が喜んでいることです(まだ誰も受洗していませんが)。普通なら引退を考える年齢ですが、命尽きる最後の日まで主の御導きに従っていきたくて願っています。

[略歴]

- 1945年 台湾にて生まれる。
- 1970年 米国デンヴァー大学大学院修了。
- 2011年 琉球大学を定年退職。
- 2015年 沖縄聖書神学校卒業。
- 2015年 日本基督教団 准允 宜野湾伝道所伝道師、現在に至る。
- 2017年 沖縄キリスト教学院理事長(非常勤)、現在に至る。

総会に引き続き、16:40より正教師按手式が宜野湾伝道所信徒、関係者を交えて、司式・羽柴禎(沖縄教区議長)、奏楽・糸洲のぶ子(宜野湾伝道所)により執り行われた。<聖書>ヨハネによる福音書第10章11~18節。



第83回沖縄教区臨時総会↑



伊波美智子教師→

按手↓



第39回 沖縄教区年頭修養会報告

2023年1月9日(月) 沖縄教区宣教部

◇2023年1月9日(月・休日)午後1時から4時、オンラインで第39回沖縄教区年頭修養会が開催されました。コロナ禍の下に、二年ぶりのことです。16教会・伝道所と自宅参加者を入れて57名の参加でした。教区の今後のあり方について、重要なテーマ・課題が共有できた修養会だったと思います。

テーマ：「コロナ禍の教会で、できたことできなかったこと with コロナでのこれからの宣教」

会場：各教会・伝道所、沖縄キリスト教センター、それぞれの自宅 / 参加費：無料

参加教会・伝道所：兼次伝道所、名護伝道所、読谷教会、平良川伝道所、美里教会、コザ教会、高原教会、宜野湾伝道所、志真志伝道所、首里教会、よきサマリヤ人伝道所、佐敷教会、うふざと伝道所、宮古島伝道所、平真教会、石垣農村伝道所(16教会・伝道所、自宅参加者の合計57名)

「開会挨拶・オリエンテーション」宣教部委員・金井創牧師(佐敷教会)の総合司会のもとに始まりました。



沖縄キリスト教センター会場

「開会礼拝」首里教会の礼拝堂から亀島勝子さんの奏楽により、説教は上地武牧師、聖書はエフェソの信徒への手紙1章15～23節、説教題「教会はキリストの体」でした。なお、開会礼拝献金61,160円(1月31日現在)は、教団社会委員会の呼びかけに応じて、ウクライナ救援募金としてACT(Action by Churches Together) Allianceに献げられました。

「写真スライドで見る沖縄教区の教会・伝道所」金井創牧師(佐敷教会)が、長年にわたり地道に教区内の全教会・伝道所を訪問し撮影したことの成果です。それぞれの教会・伝道所を改めて自分の目で確認

することができ、身近に感じることができました。また、それぞれの教会・伝道所の宣教の課題を共有することができたように思います。映像の力をまざまざと思い知らされました。今後の教区形成が期待されます。好評でした。金井牧師のお働きに感謝いたします。

「発題『コロナ禍の教会で、できたこと、できなかったこと with コロナのこれからの宣教』(教会・伝道所紹介/自己紹介などを5分程度で発表)

時間をかなりオーバーしましたが、信徒の方々の祈りと熱意が伝わってくる良い時間だったと思います。参加者の生の声をじっくり聞くことができました。コロナ禍の中での再発見したことなどが報告されました。(休憩10分間)

「教区アワー」羽柴禎教区議長(名護伝道所)と玉城涼子教区書記(兼次伝道所)から以下の報告とお願いがありました。①「国家安全保障三文書」(2022年12月16日、閣議決定)に対する内閣総理大臣宛て抗議文書「西南地域の防衛強化に対する抗議」(1/4付け)送付。②伊波美智子教師の按手礼式執行について、2月26日(日)書類審査を認め臨時総会開催。議員出席は、宜野湾伝道所の会員を優先。③4教会・伝道所の後任人事未定の現状について。④巡回教師について、今後の教区形成の課題として広く声を聞いて考えて行く。⑤機構整理について、時間をかけて各部・委員会の横の連携と協力、宣教部を中心に強化が課題です。(以上議長)⑥教区総会報告の書類の提出期限の厳守について、「各部、各委員会、各教会・伝道所の協力を切にお願いいたします。私を助けるつもりで。」(書記)。最後に、「教会はキリストの体、どうしたら教区の教会・伝道所が元気になるか。祈りをもって、皆で支えあって頑張りたい。」(議長)。

「みんなで讃美歌を歌おう!」教区センターから、具志堅牧師(読谷教会)がギターを弾きながら「イエスがここに」「みんなで輝く日が来る」を合唱しました。心が奮い立つ讃美の時でした。

「閉会挨拶と祈祷」川崎正志牧師(石垣農村伝道所)が、宣教部を代表し感謝の辞を述べ祈祷をもって終わりました。



首里教会

沖縄教区デイキャンプ

2023年 2月23日(木) しちやま荘

「しちやま荘でバーベキュー！ 海岸清掃付き」

- ◇日時：2023年2月23日(木・祝日) 11時～15時
- ◇場所：沖縄教区研修センター「しちやま荘」
- ◇プログラム：開会礼拝、バーベキュー、海岸清掃、自由時間、閉会礼拝
- ◇参加費(キャンプ保険含む)：500円

教区デイキャンプ

宣教部・金井 創

2月23日(木)、教区研修センターなきじん「しちやま荘」にてデイキャンプが行なわれました。昨年11月3日に計画しましたが、あいにく当日は雨風が強く、直前に中止。今回に順延となった企画です。コロナ感染が落ち着いてきたことで数年ぶりに対面での行事となりました。

今回は子ども13人、大人24人もの参加があり半日で終わってしまうのがもったいないプログラムでした。広いキャンプ場敷地内で自由に遊ぶ時間や、みんなで海岸清掃をしたり、バーベキューをしたり、天候にも恵まれて暑いほどの日差しの中、あっという間に時間が過ぎていくような得難い機会を共に過ごすことができました。一人の怪我も事故もなく、体調不良を訴える人もなく、救急箱の出番がなかったことがなによりです。

開会礼拝は読谷教会の具志堅篤牧師。ギターを弾きながら賛美をリードしてくださり、また聖書のメッセージを心に届くように語って下さり、このキャンプ全体が神様とつながり、神様をほめたたえるものであることを参加した皆がそこに立つことができたのではないのでしょうか。

しちやま荘は地元の人でもたどり着けないほどわかりにくい場所にあります。これまでに何度か道案内看板を各所に設置してきましたが、老朽化したり台風で破損したりして作り直す必要がありました。それを今回は首里教会グループがきれいに看板書きをしてくださって、これで当分は大丈夫でしょう。

バーベキューの食材は地元の肉屋さんに注文しましたが、海岸清掃も行なうキャンプであると知って食べきれないほどのお肉を大幅に割り引きして届けてくれました。自分たちだけが楽しむキャンプではなく、地元に貢献するものであることを、私たちが改めて教えられる思いです。

スタッフや参加した牧師たちの中には、自身がこのような教会を越えたキャンプによって育てられたことを話してくれる人たちもおり、生涯の信仰の友が与えられることを願ってこのキャンプを継続していきたいと思います。しちやま荘がそのような友情と信仰をはぐくむ場として、今後も豊かに用いられていきますよう願っています。

コロナ以前は夏に行っていた宿泊を伴った教区キャンプ以外に、このようなデイキャンプは初めてです。15年以上前のことはわかりませんが、日帰りできるということで参加者も多かったのでしょうか。このようなデイキャンプ、そして宿泊キャンプと、実施の仕方も工夫して充実させていきたいと思っています。



「沖縄教区報・道しるべ」283号 お詫びと訂正

- ◇1p【常置委員会：定数9】上門米子（推薦）⇒徳門米子（推薦）へ訂正します。
- ◇2p【沖縄キリスト教センター：定数8】大城美佐子⇒大城美代子へ訂正します。
- ◇7p【委員】大城 美佐子⇒大城 美代子へ訂正します。
- ◇5p「タイトル」昇天者祈念礼拝⇒召天者祈念礼拝へ訂正します。
- ◇5p【本文2箇所】昇天者祈念礼拝⇒召天者祈念礼拝へ訂正します。

校正が行き届かず誤って記載しておりました。申し訳ございません。

沖縄教区ホームページ立ち上げに伴い、「沖縄教区報・道しるべ」をWEB版に移行する準備を進めています。
詳細はおって連絡します。

安全保障関連三文書に対する抗議

沖縄教区常置委員会

内閣総理大臣 岸田文雄様

南西地域の防衛強化に対する抗議

2022年12月16日、「国家安全保障戦略」、「防衛力整備計画」、「国家防衛戦略」の三文書が閣議において決定されました。いずれも中国の軍備拡大を念頭に「有事」を想定した今後の日本の防衛体制強化のための計画が示されておりますが、このような場合、政府は懸念される「有事」を、まず外交努力によって回避することが第一の仕事であるのはご存知でしょうか。「ミサイルが飛んでくるかもしれないから、我々もミサイルで対抗する」ではなく、そのミサイルを飛ばさせないようにするのが政治です。

国民が政府に望んでいるのは軍備増強ではなく、戦争に資金や生命を割かずに済むよう、いかに安定した国際関係を構築していくかです。これが平和憲法が訴える条文です。しかしこの度の安全保障関連三文書ではそのような期待は一切無視され、戦争という誰も望んでいないシナリオしか描かれていません。岸田首相としては威勢よく掲げたつもりかもしれませんが、これは日本政府が政治的に無能であるということ内外に向けて自ら声明したに等しく、大変恥ずかしい宣言であるということをご自覚ください。

また政府が想定している戦地が「南西地域」であることについても強い憤りを禁じえません。沖縄戦において強いられた深い傷の未だ癒えない島々を、再び戦場とすることを許容した一連の方針は、アジア・太平洋戦後史の文脈から考えても到底許されるものではありません。安全保障の名のもと既に多くの米軍基地・自衛隊基地が南西諸島に展開されています。それだけでも住民は恐怖しているのです。それが更に強化・拡大されることへの不安がどれほどのものなのか、分からないのであればせめて沖縄戦の歴史を学んでください。

言うまでもなく、政府が想定している「有事」は、自然災害とは発生のメカニズムが全く異なるものです。「地理的に仕方がない」、「避けようがない」という理屈は成り立ちません。恒久平和の決意に立つ日本政府は、沖縄を二度と標的にさせないこと、また二度と戦地としないことを念頭に、軍事力に依らない指針を掲げそれを実行しなければならないのです。

嘗て日本は、沖縄を「本土」防衛のための捨て石とし、住民の命と暮らしを巻き添えにしながら島々を地獄と化しました。三文書に示された計画・戦略は、それを再び呼び覚ますものであることは明白であり決して容認出来るものではありません。安全保障関連三文書については閣議決定を取り消し、即刻これを撤回されるよう強く要望します。

以上

2023年1月4日

日本基督教団沖縄教区常置委員会

〒901 - 2213

沖縄県宜野湾市志真志4丁目24番7号

Tel 098-898-4363/fax 098-897 - 6963



地の塩 「神の子ミニストリー」

私は正社員として介護の現場で働いています。平良川伝道所の皆様には、介護職に就くことを理解と祈りによって支えていただいています。先日、職場で新型コロナのクラスターが発生し私も感染しました。高熱のため立つこともできず、発症から五日間は寝込んでしまいました。その間の主日礼拝の時です。数年前から取り組んできましたYouTube（ユーチューブ）によるネット配信で礼拝に出席することにしました。同じ志で配信を助けてくださる嵩元さんが、過去の配信の中から視聴者数の高いものを選んでの配信です。その時の主日礼拝では、平良川伝道所にも多くの方が訪れてくださり、同じ時間を共有し、画面を視聴しながら不思議な一体感を体験しました。画面上は元気な私自身が語っています。まるでタイムスリップしたかのような思いで、賛美と礼拝、また聖書のみ言に励まされました。

YouTubeは視聴する側の都合や状況に合わせてすることができます。その日行われた礼拝を再編集してWebに上げることもできます。コロナ禍での取り組みですが、神様の導きを感じています。最近では、視聴者が平良川伝道所に訪れてくださり感謝しています。これも伝道所の皆様の祈りと協力の賜物で、沖縄教区内の教会でも、関心がありましたら共有していきたいコンテンツです。まずは「神の子ミニストリー」で検索してみてください。

平良川伝道所代務
林 利行

◆ 編集後記 ◆

「沖縄教区報・道しるべ」285号をお届けします。

新型コロナ感染症及びインフルエンザ流行の気の抜けない最中、第83回沖縄教区臨時総会及び伊波美智子教師の按手礼(2.26)、沖縄教区デイキャンプ(2.23)、第39回年頭修養会(1.9)と着々とこなしてきました。困難な状況の中でもいろいろと活動の道は見つけ出していけると信じています。

「沖縄教区報・道しるべ」も紙媒体中心からWEB活用への展開を考える時期に来ていると考えます。教区財政のひっ迫にも寄与すべく、広報の在り方をホームページ中心に、教区広報の見直しを行うことを考えています。ホームページの公開をめざし、今その準備を進めている所です。各教会・伝道所、教区各部・委員会宛にご協力依頼を發出する折にはご協力を賜りたいと思います。

仲本 瑩（「沖縄教区報・道しるべ」編集委員長）